

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅲ 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
担当者氏名	山田克宏・小野聡子・高木さひろ	実務経験の有無	有	開講期	3年前期

【授業の主題】

本科目は、ソーシャルワーカーに求められる相談援助にかかわる基本的な価値・知識・技術について、演習を通して実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていけることができる能力を涵養することを目的とする。具体的には、相談の受付からアセスメント、プランニング、支援の実施とモニタリング、効果測定、終結とアフターケアまでの相談援助における一連の過程を体系的に学ぶ。

【到達目標】

- 1) 他の科目で習得したコミュニケーション技術などを面接場面のロールプレイなどに活かすことができる。
- 2) 具体的な事例をもとに、インテークから評価まで相談援助における一連の過程を実施することができる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション・相談援助の展開
- 第2回 ソーシャルワーク方法論と援助の展開 (1)
- 第3回 ソーシャルワーク方法論と援助の展開 (2)
- 第4回 事例によるソーシャルワーク実践 (1) インテーク演習
- 第5回 事例によるソーシャルワーク実践 (2) アセスメント演習① 情報収集、生活課題やニーズの明確化
- 第6回 事例によるソーシャルワーク実践 (3) アセスメント演習② ストレngths視点の理解
- 第7回 事例によるソーシャルワーク実践 (4) プランニング演習① 利用者と環境の相互関係の分析
- 第8回 事例によるソーシャルワーク実践 (5) プランニング演習② 目標達成に向けた具体的方法の検討
- 第9回 事例によるソーシャルワーク実践 (6) 支援の実施 (介入) 演習① 支援計画の展開①
- 第10回 事例によるソーシャルワーク実践 (7) 支援の実施 (介入) 演習② 支援計画の展開②
- 第11回 事例によるソーシャルワーク実践 (8) モニタリング・サービス評価～設定した目標の振り返り
- 第12回 事例によるソーシャルワーク実践 (9) 効果測定～支援の効果を測定する方法
- 第13回 事例によるソーシャルワーク実践 (10) 終結～援助目標と支援計画の評価
- 第14回 事例によるソーシャルワーク実践 (11) アフターケア～終結後の体制構築と社会的アクションへの展開
- 第15回 授業のまとめ～各自の学びと達成したこと等について自己評価

【授業実施方法】

基本的には演習形式で行う。

【授業準備】

演習内容を踏まえ復習を中心に行うこと。

【主な関連する科目】

ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ

【教科書等】

長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤政和、中谷陽明『社会福祉士相談援助演習 (第2版)』中央法規出版。

【参考文献】

授業中にその都度紹介する。

【成績評価方法】

課題提出 20%、ロールプレイなどへの参加状況 80%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で生活相談員として相談業務を経験
相談援助の経験を活かし、その人らしい生活ができるように必要な福祉サービスのあり方を伝えたい。

【学生へのメッセージ】

演習は具体的な援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイなど) を中心とする参加型授業形態で行う。よって、積極性を発揮してもらいたい。